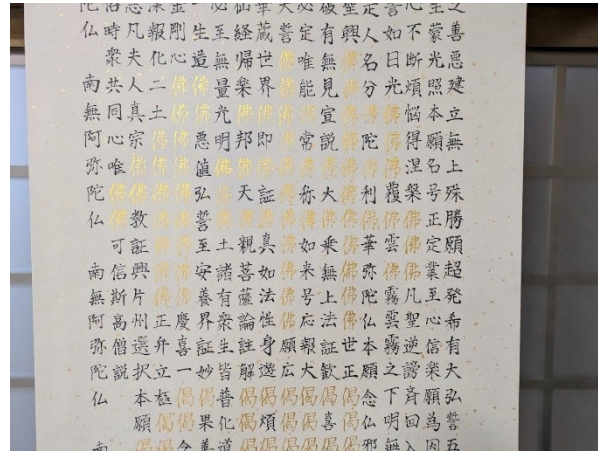


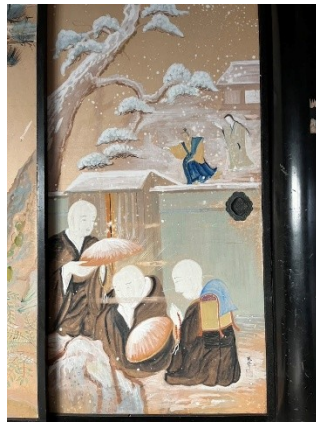
う。その場で紙を開けてこちらに向けるように」と言われ、笈きゅうから硯と筆を取り出して、虚空にすらすらと六字の名号を書かれました。すると老婦人の持つ紙に、『南無阿弥陀仏』の六字の名号があらわれました。これを川越の名号と呼びます。」



このように親鸞聖人の伝説の中には、史実を重んじる現代では荒唐無稽と思われる内容も少なくありません。しかしその伝説が語られてきた地域では、親鸞聖人は最も尊ばれた人であり、民衆は伝説によって親鸞聖人を知り、親しみを覚えてきたのでした。

「川越の名号」として伝えられてきた話は、名号南無阿弥陀仏のお心をいただきたいという思いが生んだ伝説だったのかもしれない。

娘の事で恐縮ですが、高校の文化祭で作成した「正信偈」の筆文字です。「正信偈」840字の中に「正信念佛偈」の文字が浮かび上がっています。暫くの間本堂に掛けていますのでよろしければ見てやってください。



川越の名号を描いた明法寺本堂の襖絵

151号に続く再掲載です。「勤行聖典(経本)」は直接畳の上(人が歩く所)には置きません。なぜなら仏さまの教えが説かれているからです。膝の上、もしくは聖典袋等の上に置きます。お念珠も同じことです。「経本仏具は粗末に扱わない」理屈抜きに大切なことです。

注目! ↑↓

法要・行事予定

◎春季彼岸会

日時：3月20日(木・祝)朝・昼席
講師：森岡恵隆師(沼田町吉山 法隆寺)

◎ヨガ

1月、2月はお休み

